

花も虫も人も共に生きてるんだね

荒田玉加琲
新聞
Vol.94
2025.6.18(水)

青葉台郵便局の屋上で養蜂を行っているのをご存知でしょうか。

2021年から始まった「ハニービープロジェクト」という取り組みです。

青葉台駅の周辺を蜜源となる草花で緑化し、養蜂を通じて花と緑がいっぱいの笑顔あふれる街づくりを目指しているそう。こうした「都市養蜂」はいま、全国的に広がってきています。「ハニービープロジェクト」で採れたハチミツは製品化されており昨シーズンも郵便局などで販売されていたので購入された方もいらっしゃるかもしれませんね。その名も「ほすみつ」。郵便局の屋上産のハチミツらしいネーミングもかわいい!!

ボクたちふんばはという前置きから… 先日、ひょうなことからこの貴重なハチミツを刺したりはいよ! いただきました。「棚からぼたもち」ならぬ「屋上からほすみつ」です。

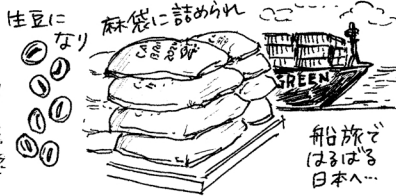
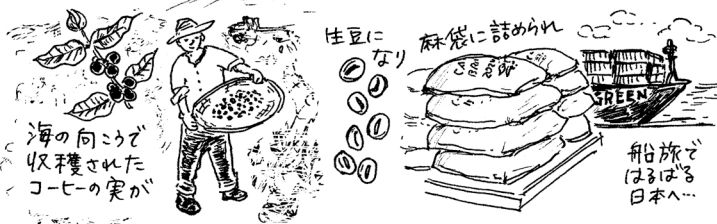
蜂の巣から蜜を採る作業では煙を焚き、ミツバチたちを大人しくさせて刺されないようにします。よく煙を出すには燃えやすい麻が最適とのこと。コーヒー豆の麻袋があれば使いたいとご相談いただいたのです。麻にそんな活用法があるとは知りませんでした。そういうことなら是非お役立てください! と麻袋をお渡したのです。

かくして数週間後、麻袋が採れたてのハチミツとなって戻ってきたという訳です。なんて有難いお返しでしょうか。蜜を集めて一つの小瓶を満たすためにミツバチがどれほど青葉台の花から花へと飛び回ったのだろうと想像すると、もたないで開けられません。淡い金色に輝く初物のほすみつはしめあせの味に決まっています。

ほすみつ



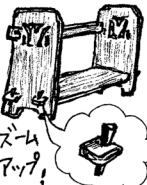
透き通った淡い金色の蜜はさわやか初夏の味。採る季節とともに色や風味が変わるのだとか。



ほすみつをお裾分けいただいた一連のサイクル。これもひとつのSDGsのような気がして、ちょっと嬉しくなった出来事でした。

ちなみに、世界にはコーヒーの花を蜜源とした珍しいハチミツもあるんですよ!

モ、図鑑 #9 榎の本棚



古道具屋からやってきた榎の本棚は組み立て式。長年使い込まれてカタがきているけれどまだ現役です。側面にある榎を外すと簡単に分解できるから使わない時も場所を取りません。金釘を打たない素材でも鬼力です。とろとろ、榎を紛失した部分は割り箸や端材を切って補っています。いびつさも愛着と見える、味のある本棚には、手に取ってみたくなる良本を並べます。

7月のお休み

1(火)・7(月)・8(火)・14(月)・15(火)・22(火)・28(月)・21(月、祝)と29(火)は営業☺

もう7月とは…早いぞね
2025年も後半戦。
熱中症に気を付けて
元気にまいりましょう!

